



2026年3月11日

各 位

会 社 名 株式会社ジェリービーンズグループ
代 表 者 名 代表取締役社長 宮崎 明
(コード3070・東証グロース市場)
問 い 合 せ 先 取締役 IR広報室長 林 光
電 話 番 号 (03) 4570 - 6139
(URL <https://www.jelly-beans-group.co.jp/>)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2026年1月26日付けで公表しました「通期業績予想修正に関するお知らせ」につきまして、下記のとおり、2026年1月期（2025年2月1日～2026年1月31日）の業績予想に対して、再修正させていただくことになりました。以下、その理由についてご報告申し上げます。

記

1. 当期の連結業績予想数値の修正（2025年2月1日～2026年1月31日）

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり連結当期純利益
前回発表予想（A） （2026年1月26日）	百万円 3,000	百万円 200	百万円 180	百万円 144	円 銭 1.82
今回発表予想（B）	3,591	△59	△78	△254	△4.80
増 減 額（B－A）	591	△259	△258	△398	－
増 減 率（％）	19.7	－	－	－	－
（参考）前期連結実績 （2025年1月期）	831	△519	△532	△519	△33.37

2. 業績予想修正の理由

今回の再修正は、当社の連結子会社である株式会社Gold Starが、2025年12月初旬より全国発売を開始した新商品「3D フルーツアイス」に関連する一時的に多額の費用が発生したことによるものです。

（1）売上高の増加

2025年12月より全国発売を開始した新商品「3D フルーツアイス」が、当初の予測を大幅に上回るスピードで店頭での完売が相次ぐなど、極めて旺盛な需要が発生したことによるものです。このヒットに伴い、連結売上高は前回予想（3,000百万円）に対し、591百万円増（19.7%増）の3,591百万円となる見通しとなりました。

（2）新商品「3D フルーツアイス」の爆発的ヒットと供給体制の課題

（1）で説明した通り、旺盛な需要に対し当社は機会損失を最小限に留めるべく、中国からの商品の緊急輸入仕入れや、サプライチェーンを見直すために、当社の連結子会社である株式会社JB

ロジスティクスへ物流ルートの一元化を前倒しで実施いたしました。

しかしながら、一部の販売チャンネルにおいて、発注のオーダーに応じきれない商品の供給不足が発生し、需要に対する供給を最優先で取り組み、今後の販売を促進するための取り組み（具体的には、大手スーパー、コンビニ等の問屋向けに以下の活動をおこないました。2026年2月4日から6日の中四国春夏商談展示会（日本アクセス）、同月9日から10日の福岡春夏商談展示会（日本アクセス）、同月12日から13日の中部展示会（日本アクセス）、同月16日から20日のスーパーマーケットトレードショー、同月25日から26日の北海道春夏商談会（日本アクセス））を優先した結果、コストが先行する形となりました。「3Dフルーツアイス」の商品に係る緊急対応となったために、一時費用（おもに、売上原価195百万円、物流費36百万円、広告宣伝費17百万円を計上いたしました。）として処理を行いました。なお、2026年1月26日の開示時点では、一時費用の発生見込みは想定していませんでした。

こうした万全な供給体制を確保するために、期末時点では一時的に在庫が多くなりましたが、これらは2027年1月期第1四半期に企画している複数の大規模キャンペーンにて消化予定の商品群であり、売上拡大に向けた戦略的な備えとして位置付けております。

（3）物流費・販売促進費並びに法人税額の増大と業績への影響

2.（2）に記載の緊急対応に伴い、従来は神戸港着であった入荷を横浜港や仙台港へ変更したことによる物流費（36百万円）および広告宣伝費（17百万円）が、当初の計画を大幅に超過し、これらが一括して2026年1月期の業績を圧迫する要因となりました。売上高については、前回の修正予想（3,000百万円）の水準をはるかに上回り、現在も、概ね順調に推移しておりますが、2025年4月に連結子会社となった株式会社GoldStarにおいて、12月決算であったため税務申告の計算を行う段階で、新商品による売上の拡大に伴う法人税額の増加（118百万円）があり、また、決算期を当社と同じく1月に変更したことによりさらに法人税額の負担が増加（16百万円）したことにより親会社株主に帰属する当期純利益はさらに減少となりました。そのため、これらの先行投資的費用等が利益を押し下げる結果となりました。

（4）監査法人との協議について

2.（2）および（3）に記載の「3Dフルーツアイス」に関連して発生した費用の会計処理については、監査法人と協議を行い、その処理内容について合意しております。

これにより、2026年1月期においては、連結業績予想において、営業損失、経常損失および親会社株主に帰属する当期純損失を計上する見込みとなりました。

3. 今後の見通し

2026年1月期通期業績予想の修正を行うこととなりますが、アイスクリーム事業が市場において強力な「成長エンジン」であることを、この新商品「3Dフルーツアイス」の投入により確信できた初動であったと捉えております。

現在（2027年1月期）においては、すでに物流体制の再構築および仕入れサイクルは完了しており、コスト構造は無駄のない、筋肉質な体制となっております。また、すでに完了している婦人靴事業の実店舗撤退による固定費削減も収益の改善に寄与しております。さらに、「361°（スリーシックスティワンディグリー）」の店舗展開、ジェリービーンズスタイルのリカバリーウェアの販売開始、JBサステナブルの蓄電池・ウオーターサーバ事業の受注獲得といった多角化戦略も順調に推移しております。2026年1月期より進めてきた成長事業への経営資源の集中をさらに加速させ、2027年1月期の黒字着地を必達目標として、全社一丸となって取り組んでまいります。

株主様および投資家様の皆様におかれましては、より一層のご理解と引き続きのご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

以上